

認められるチームに ~阪南大サッカー部の夢~



松本俊亮
 阪南大学 経済学部（岡山学芸館高校出身）
 サッカー部主務

外山凌
 阪南大学 流通学部（前橋育英高校出身）
 サッカー部主将

現在、関西学生サッカーリーグで首位に立つ阪南大学。そのチームを主務、主将という立場で支える二人の選手がいる。二人にはどのような思いがあるのか。心境に迫る。

TEXT BY 堀本えみり（阪南大学流通学部）

個を出しながら勝てるチームに
 —今年の阪南大はどういうチームですか？

外山凌選手（以下外山） 去年インカレで優勝に一步届かず悔しい思いをしたので去年の反省を踏まえて、プレー面での課題は監督に指導していただきながらピッチ外や私生活の部分を変えていこうという取り組みを主務の松本を中心にできていて、少しずつまとまってきたかと思っています。

松本俊亮選手（以下松本） 個が強いチームだと思っています。キャプテンを中心にまとまっていると思うのですが、個の部分を活かしながらまとめるのはすごく難しいと思うんです。でも個を出さないと勝てないので個を出しながら勝てるチームを作りたいと思っています。

—お互いのプレーの特徴は？

外山（松本） 俊亮は中盤の選手なので、攻撃のときに前に急ぎ過ぎないようにあえて横にパスを出したりしてその中で相手を横に揺さぶったりして、落ち着きと展開力が持ち味だと思います。

松本 外山の特徴はスピードです。とにかく早い。でも、スピードだけでなくドリブルも得意で得点に多く絡めるので、前線の何処でもプレーできる感じですよ。

主将として、主務として

—外山選手が主将になられた経緯は？

外山 昨年思うようにチームがまとまらず、3回生からも主将をだして3回生と4回生でチームを引っ張っていくような話になって僕が主将になりそのまま引継ぎになりました。主将という責任はありましたし、必ずいい方向に持っていこう、という強い意

気込みがありました。
 —チームから見てどういう主将になっていたんですか？

外山 僕はポジシヨンの後ろからピッチ全体を見て声を出すことはできないですが、苦しいときに点を取ってチームを助けられるような、救えるような仕事ができる主将でありたいです。

—松本選手が主務になられた経緯は？

松本 ある教授に「阪南大学でサッカーをすることは、一流大学で勉強するのと同じくらい価値があると思う」と言われ、そんな環境でサッカーをやっているんだったら何かやんなきゃいけない、もつといいサッカー部にしたいと強く感じ、自分から手を上げました。主務の役割はチームの舵取りのような感じだと思っています。チームの方向性がゆがまないように主将の助けもしながらチームをよりいい方向にもっていく仕事や、事務的な仕事もあります。今年観客動員を増やすための活動に力を入れています。大学近辺のお店にポスターを貼ってもらいに行ったり、学内でピラ配りをしたり、まずは僕たち自身で情報を発信していこうと思っています。僕たちの活動で大学を盛り上げていきたいです。

外山 俊亮はしょっちゅうサッカー部の話をしています。「良くないところだよ、ここをもっとこうしたほうがよくない？」みたいな話をしていて、俊亮と副務の高田がすごくサッカー部の事を考えてくれます。基本的に裏方の仕事をしてもらっています。

るのは俊亮と高田なので3人で話すことが多いです。

阪南大のために戦う姿を・・・

—まだ観戦したことのない人におすすめのポイントは何ですか？

外山 プロだとスター選手がいたり、スタジアムの雰囲気も良くて行きたいとかだと思っうんですけど、大学サッカーって、学生同士が学生らしさを発揮して戦い合っていてとても熱いんです。そういう姿勢を見てほしいと思います。

松本 ものすごく迫力がありますし、チームのスタイルがあって大学によつて色がでてるので見ていて楽しいと思います。サッカーに対してものすごく熱くなれるやつばかりですし、試合では普段と違う姿を見ることができるとか思います。

—今年の阪南大の見所は？

松本 左右のサイドバックをはじめ、中盤の底にもイケメンが揃っています。ぜひ、会場に探しに来てほしいですね。少しのファンサービスには対応してくれると思います（笑）それと応援にも力を入れてるので、楽しい雰囲気観戦することができるとか思います。

外山 今年は中盤の選手の層が厚いので試合に出ていない選手も実力があるし、例えば総理大臣杯とかで連戦になって、疲れが見えてきた選手を変えて新しい選手が入ってもプレーの質は維持できると思うのでそこが見どころです。阪南大学の中に所属する

